

☆医ケアネット主催：6月21日（京都市ホテル ルビノ京都堀川）…概要報告版 2015'6/22 事務局N

●シンポジウム●「当事者の声を聞く」～第3号研修がひろげる暮らし～

当日の開催案内などは医ケアネットHP 最新情報6/22付部分を <http://www.mcnet.or.jp/index.shtml>

医ケアネット主催シンポジウム。事前参加申し込みは近畿圏内だけでなく山梨、東京、愛知、岐阜、福井、福岡などから、当日参加も10数名に。スタッフも入れ90名近い参加に、用意した資料やイスも不足し嬉しい事態に急ぎイスや資料コピー追加することに。4名の分野・立場のシンポジストから医ケア実際などについて報告、特別支援学校での医療的ケアになどについてはフロアー参加者も交え討論になりました。

最後に医療的ケアネットが中心に「第3号研修」を広め検証・提言などしていこうと全国組織設立を提案宣言が参加者の大きな拍手で確認されました。

シンポジウム終了後には2015年度医ケアネット総会を開催、新たな事務局体制を確立し全国へさらなる共有・共同を求め発信していくこと、HPやMLの充実なども提案討論され確認されました。

18時からは同ホテル内で交流会も企画され近畿圏だけでなく山梨、東京、愛知、岐阜、福岡などからも参加、名刺交換や自己紹介などしあつという間の2時間半でした。

シンポジウム終了後帰路時間帯には突然の豪雨にあわれた方もおられたんでは、各地からご参加いただき本当にありがとうございました。<m()m>

※<討論テーマ>シンポジスト…

*司会&コーディネーター／篠原文浩（医療的ケアネット理事）

1. 重症心身障害児者・家族の立場から
東海林美希子さん（重度脳性麻痺の女の子の母・作業療法士）
2. 「難病」患者・家族の立場から
増田英明さん（一般社団法人日本ALS協会【近畿ブロック】会長）
3. 「支援者」の立場から
高橋慎一さん（日本自立生活センター・介助者）
4. 学校や育ちの場からの報告 最後に鳥取での話題もふくめて
下川和洋さん（NPO 法人地域ケアさぼーと研究所）
5. 共通する成果と課題を確認・共有・宣言

…と、最新情勢に合わせ報告順序を当初予定から入れ替えました。

※全国第3号研修普及研究会議（仮称）設立宣言～必要な人に、必要な支援を届ける～

<http://www.mcnet.or.jp/download/pdfdata/20150621-sinpo-sengen.pdf>

…… 会場が予想を超える満席状態になったり資料が不足したりと参加された皆様には、本当にご不便をおかけし申し訳ありませんでした。これからも医療的ケアネットにご参加・ご参集いただき、みんなで学び合っていければと考えております。どうぞよろしく願いいたします。<m()m>

△京都新聞電子版に昨日のシンポジウム模様が掲載されていました。

***在宅の医療的ケア、信頼関係が根幹 京都の重度障害者訴え**

京都新聞 2015年06月22日 17時10分

<http://kyoto-np.co.jp/politics/article/20150622000097>

> 在宅で暮らす重度障害者へのたん吸引や胃ろう処置などの「医療的ケア」についてのシンポジウム「当事者の声を聞く」が21日、京都市上京区のホテルで開かれた。患者や家族たちが現状を報告し、ヘルパーとの信頼関係の重要性を訴えた。

医療的ケアは介護保険法改正で、2012年4月、重度障害児らの在宅生活支援のために研修を受けたヘルパーら非医療職が実施できるようになった。シンポは3年がたち、課題と成果を考えるため、NPO法人医療的ケアネット（南区）が開いた。

日本ALS（筋萎縮性側索硬化症）協会近畿ブロック会長増田英明さん（71）＝左京区＝が、ヘルパーの代読で講演した。家族不在時でもヘルパーにケアを任せられるようになった利点を紹介した上で、「話せなくてもコミュニケーションが取れる人に任せたい思いがある。資格があっても、アクシデントに対応できない場合があるから」と、信頼関係の構築を課題に挙げた。

重度脳性まひの小学校2年の長女を育てる東海林美希子さん＝伏見区＝は、ケアをしてくれる事業所探しが難航したことに触れ、「多くの子どもたちにケアを広げるため、安心して任せられるヘルパーを増やしてほしい」と訴えた。

シンポでは、医療的ケアの研修普及に向けて、全国組織の創立を呼び掛ける宣言を採択した。

…などと伝えていきます。



↑↑ シンポジウム会場模様



←← 交流会会場模様